

平川市

地域における福祉学習実践事業
小学生防災キャンプ

合計参加者
50名

目的

- 防災に対する正しい理解とともに、共に支え・生きることの大切さを学ぶ。
- 仲間と共に過ごし、一緒に活動することを通して、お互いを分かり合おうとする気持ちを持つ。
- 実行委員さんを始め、保護者や社会福祉協議会の方々に、感謝の心を持ち、心に残る思い出をつくる。

成果

- これまで市内小学校へ募集をかけて児童を対象として事業を実施していたが、学校やPTAの保護者と協力して企画・実施することで、より地域を対象として事業を実施することができた。
- 体験活動を通じて、災害時に困り事として想定されることを児童、保護者、教員のそれぞれで具体的に意識を共有することができ、考えるきっかけとすることができた。



期日・会場・参加者

期日：令和6年7月6日(土)～7日(日)…1泊2日
 会場：平川市立平賀東小学校
 参加者：平賀東小学校6学年
 児童25名 保護者等23名 スタッフ2名
 合計 50名

今後に向けた課題

- 保護者や学校側が行事を企画する意図とのすり合わせに時間を要し、準備後半のスケジュールが押したため、企画段階で可能な限り具体的なスケジュールを確認・共有が必要と感じた。
- 炊き出しや余暇、学習とそれぞれで準備物が多くなってしまい、協力して下さっていた保護者や教員の皆様が後半疲れている様子が多々見られた。行程の効率化と作業内容の分散が今後の課題と思われる。



藤崎町

地域における福祉学習実践事業

参加者
15名

目的

昨今の能登半島地震をはじめとする度重なる災害により、防災食や炊き出しへの注目が集まっている。災害時に備え、緊急時の家庭での備蓄方法や、衛生的かつ温かい食事を作るための手法を学ぶために行う。

成果

防災クッキングでは、「災害時に必要な備品を知れて良かった」「簡単で美味しく、自宅でも作りたい」などの感想が寄せられた。

また、地域や町内での実施希望も多く、福祉学習実践事業として意義深い活動となった。



期日・会場・参加者

期日：令和6年10月18日(金) 10:00～13:00
 会場：ふじさき産業文化交流施設(リンゴカ)食品加工室
 対象：藤崎町町民
 参加者：15名
 参加費：無料



今後に向けた課題

防災クッキングでは、「子どもや孫と一緒に参加できるように開催日や内容を工夫してほしい」という意見が寄せられた。今後は高齢者に限らず、幅広い世代が参加しやすい内容やスケジュールを検討し、多世代交流を促進できる事業を目指していきたいと考えている。



鶴田町

地域における福祉学習実践事業

参加者
48名

目的

鶴田町社会福祉協議会・鶴田町地域貢献推進協議会
共催にて、頻発する自然災害に対する、防災の知識や
備え、災害時においても地域で助け合う大切さを学ぶ
ため、災害時訓練を通して地域住民や関係機関との連
携体制を確保する。

成果

別紙アンケートの結果、今回の防災教室の内容
について参考になったとの回答が100%となった。
また、BCPの作成状況や緊急時に事業所同士で
助け合える体制づくりについて等、活発な意見交換
をできたようだ。
今後、事業所に持ち帰っての訓練やレクリエー
ションに役立て、日常的な防災意識の向上に役立て
ていく。

期日・参加者

期日：令和6年9月27日(金)13:30~16:00
参加者：48名
(高齢福祉・障害福祉・保育施設職員、民生委員、
行政職員)

今後に向けた課題

今回の防災教室をきっかけに事業所同士の交流
を深め、災害時に助け合う体制づくりを行い、各事
業所のBCPの作成についても改めて意見交換の場
を設け、情報共有を行っていく。
また、地域への発信も行い、災害時
要配慮者(高齢者や障がい者など)が
いることに気づき、支え合いの人切さを
学び、地域のつながりをつくっていく。



三沢市

地域の支え合いの仕組みづくり推進事業

合計参加者
138名

目的

地域の日常的にある何気ない支え合い活動に目を
向け、暮らしの中での「つながり」の見つけ方や支え
方、つながり続けるコツなどについて考える機会と
し、これからの地域生活や支援活動に活かしていくた
めの情報交換の場として実施した。

成果

座談会では、地域ならではの行事や活動、住民同
士のつながりについて話し合った。町内の総会等で
話す雰囲気とも違い、様々な意見を出し合えたこと
が良かったという声が聞かれた。
また、アドバイザーとして参加したCLC橋本氏より、
住民の方が普段あたり前に行っている地域の活
動や隣近所の交流について客観的に評価されたこと
で、それが大切な支え合い活動だという気づきと
動機づけにつながったように考える。

期日・参加者

期日：令和6年10月29日(火)~11月1日(金)
参加者：開催地域の住民、地域生活支援コーディネーター、
行政の担当職員、社協職員が参加。
市内8か所で開催し、4日間通して29町内、延べ
138名が参加した。

今後に向けた課題

たくさんの方に参加してもらったため、座談会開催
の宣伝方法の工夫と、対象地域の状況に合わせた
開催時期の調整が挙げられる。
また、それぞれの地域の活動の様子や出された
意見を広く伝えることで他の地域でも自分の地域
のことを考えるきっかけになり、
つながりの輪が広がっていくこと
を期待し、今後も地域きずな座談
会を続けていきたい。



弘前市

災害ボランティアセンターネットワーク構築事業
弘前市災害ボランティアセンター設置運営訓練

合計参加者
77名

目的

いつ何時、起こるか分からない災害に備え、災害ボランティアセンター（以下災害VC）の設置運営をスムーズに行うことができるよう訓練するとともに、ひろさきボランティアセンターや津軽広域社会福祉協議会、災害ボランティアとの連携を強化することを目的に実施する。

また、各地の災害VC運営時に使用され、主流となっている業務アプリ[Kintone]を使用しているボランティアの受入れ方法や、ボランティアの登録方法を学ぶことを目的に実施する。

成果

各地の災害VCで使用されている業務アプリ「Kintone」に触れる良い機会となった。事前登録ボランティアや津軽広域社協職員と交流し、災害VCの設置運営を経験する良い機会となった。また、本会職員が災害VCの運営マニュアルを確認する良い機会にもなっている。

期日・会場・参加者

期日：令和6年9月6日（金）、9月7日（土）

会場：弘前市社会福祉センター及び体育館

参加者：津軽広域社協構成社協職員、ひろさきボランティアセンター職員、災害ボランティア事前登録者、本会職員
合計77名



今後に向けた課題

訓練を実施するにも経費がかかり、本功成が無くなった場合には、資金の確保が難しくなることが危惧される。今回は「Kintone」に触れる程度であったが、「Kintone」を本格的に使用しての運営を見越した訓練に改良していく必要がある。



東北町

災害ボランティアセンターネットワーク構築事業

合計参加者
113名

目的

本年度は念願であった町と「災害VC設置・運営等に関する協定」を締結することができた。それに併せて社協主導による防災学習会を実施することでボランティアの育成や災害VCの認知及び協力協働の促進を図る。

成果

専門性の高い講師による講演と地元を熟知した職員によるワークによって、災害と地域特性を知り、有事のみならず平時からの助け合いの重要性に気づいてもらった。社協の特色を活かした福祉的観点を変えたことで、誰もが助けられる側から助ける側になれる・ボランティア活動への関心を高揚させることができたと思う。何より災害VCを知ってもらうと同時に、社協自体を認知してもらうきっかけになった。

期日・参加者

令和6年11月13日（水）東北中学校1年生48名
令和7年 3月13日（木）東北中学校2年465名



今後に向けた課題

今回はボランティアの担い手となり得る中学校にターゲットを絞り実施したが、恒例行事としてほしい、いかに継続していくかが課題。1年生から3年生になるまで連続性を持つことでより効果的になると考える。そのためには学校との関係性構築・連携強化が欠かせない。また学生から親そして、住民や地域企業等へと展開していく工夫も必要である。



災害ボランティアセンターの設置・運営等に関する



むつ市

地域の支え合いの仕組みづくり推進事業

合計参加者
135名

目的

核家族化が進み、高齢者のみの世帯が多く地域との関わりが希薄化してきていることから、県内観光地へのバス旅行の機会をつくることにより、孤立感の緩和及び相互理解と近隣住民の支え合いの機運の醸成を目的とする。

成果

地域の支え合いの仕組みづくり推進事業として、[昨年度に続き、ふれあいバスの旅を実施した。「バスで行く田舎館山(ぼアート)』と題し、田舎館村文化会館、津軽藩ねぶた村へ出向き、移動の車内や展望台、ねぶた村等では終始、参加者からの笑い声が絶えず聞かれ参加者相互の交流及び孤立感の緩和が図られた。

また、同事業への参加をきっかけに交流が図られ、地域のリロン活動をはじめ、つどいの場へ新規加入されるなど、支え合いの仕組みづくりになることと思う。

期日・参加者

令和6年7月 9日(火) 参加者数 65名
令和6年7月12日(金) 参加者数 70名
合計参加者数 135名

今後に向けた課題

市の広報誌に掲載し、参加募集をしているが申込者が固定化されつつある。このため、募集方法の検討や隔年参加にするなどの必要性を感じている。



六戸町

地域の支え合いの仕組みづくり推進事業

延べ参加者
147名

目的

六戸町の地域課題の1つである「共食の場」の構築にフォーカスし、子供から高齢者まで「地域の誰もが集える場」を、食事を通じて構築していくことを目的に実施する。



成果

食事以外にもポッチャ体験や創作活動で世代間交流をすることができた。参加者から「町内会でワイモぐを実施してみたいから、話し合いをしてみる」「ワイモぐを月1回からでもやれるようにしたい」と地域で食事を通しての「集いの場」を構築したいという声が出てきているため、実現に向けて支援をしていきたい。



期日・参加者

第1回 令和6年11月 9日(土)11:30~13:30
参加者46名(大人24名・子供22名)スタッフ12名
第2回 令和6年12月 7日(土)11:30~13:30
参加者47名(大人24名・子供23名)スタッフ12名
第3回 令和6年12月22日(日)11:30~13:30
参加者54名(大人27名・子供27名)スタッフ16名
延べ147名

今後に向けた課題

生活支援体制整備事業の一環として実施した。運営スタッフは社協職員、地域包括支援センター職員、調理スタッフは食生活改善推進員、子どもサポートのくのへまいプルキッチンに協力いただいた。今後、地域が主体となって実施できるように、調理や運営に住民や協議体委員を巻き込んでいきたい。

また、高齢者の参加者が少なかったことから移動等が困難な高齢者に対して、送迎サービスで対応できるか検討していきたい。

